

| | | | |
|---|---|------------------|-------|
| 年度 2009 学期 前・後期 | 曜日・校時 前月 4/後月 4 | 必修選択 必修 | 単位数 1 |
| 授業科目/(英語名) | スポーツ演習(バドミントン) Sport and Exercise | | |
| 対象年次 1 年次 | 講義形態 演習 | 教室 総合体育館2F | |
| 対象学生(クラス等) | E5~7 | 科目分類 健康・スポーツ科学科目 | |
| 担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィシアワー 担当教員:日高正博 /Eメールアドレス:mhidaka@nagasaki-u.ac.jp /研究室:教育学部 5F /TEL:095-819-2326 /オフィシアワー:随時またはメールにて | | | |
| 担当教員(オムニバス科目等) | | | |
| 授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい:身体運動の効果や実践方法またはスポーツの文化,ルール,技術を習得し,生涯に亘って身体運動やスポーツに親しむことのできる基礎知識や技能を習得することをねらいとする。 授業方法:本演習では,バドミントンを取り上げ,手軽に運動に親しみ生涯に亘って実践できるようになることをねらいとする。そのために,シャトル操作やフットワークなどの技術をはじめ,ネット型スポーツの戦術及びルールの理解と習得を通して,ゲームを楽しめるようにする。また,技能差のある相手ともゲームを楽しむためのハンディキャップ制のあり方についても検討していく。 授業到達目標:適切なシャトル操作によりラリーを続けることができる。ルールを理解し,技能差のある相手とも工夫してゲームを楽しむことができる。 | | | |
| 授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) バドミントンの基礎技術を習得し,ルールや戦術を理解してゲームで実践する。 スキルテスト実施の後,適切なハンディキャップ制のあり方について検討する。 ハンディキャップ制を取り入れたゲームを実施し,技能差を克服して誰とでも楽しめる工夫を行う。 第1回:オリエンテーション(コース決定,ねらい等の説明) 第2回:グルーピング,授業の進め方,バドミントンの基本技術,ルールについて 第3回:バドミントンの基本技術,フットワークについて 第4回:スキルテスト,ゲーム1(ハンディキャップなしでのシングルス①) 第5回:スキルテスト,ゲーム2(ハンディキャップなしでのシングルス②) 第6回:スキルテスト,ゲーム3(ハンディキャップなしでのシングルス③) 第7回:ハンディキャップ制についての検討(ハンディキャップ制とは?適切なハンディキャップの程度は?) 第8回:ゲーム4(ハンディキャップ制でのシングルス①) 第9回:ゲーム5(ハンディキャップ制でのシングルス②) 第10回:ゲーム6(ハンディキャップ制でのシングルス③) 第11回:ゲーム7(ダブルス①) 第12回:ゲーム8(ダブルス②) 第13回:グループ対抗戦1 第14回:グループ対抗戦2 第15回:スキルテスト,総括 | | | |
| キーワード | 生涯スポーツ,ハンディキャップ制 | | |
| 教科書・教材・参考書 | 教科書は使用しない。必要に応じて資料を配布する。 | | |
| 成績評価の方法・基準等 | 授業に対する積極的な参加態度 50% 技能の上達の程度 30% 授業への貢献度 20% ただし,欠席が3回以上の者は失格とする。 | | |
| 受講要件(履修条件) | 動きやすいスポーツウェアに着替えて出席すること。必ず屋内用の体育館シューズを着用のこと。 | | |
| 本科目の位置づけ/学習・教育目標 | | | |
| 備考(準備学習等) | | | |